

(3) 実践事例3 資料から分かることに対する児童の予想や疑問を基にした学習問題づくり【単元の導入】

授業の実際 第5学年 「これからの食料生産とわたしたち」（第1時／全8時間）

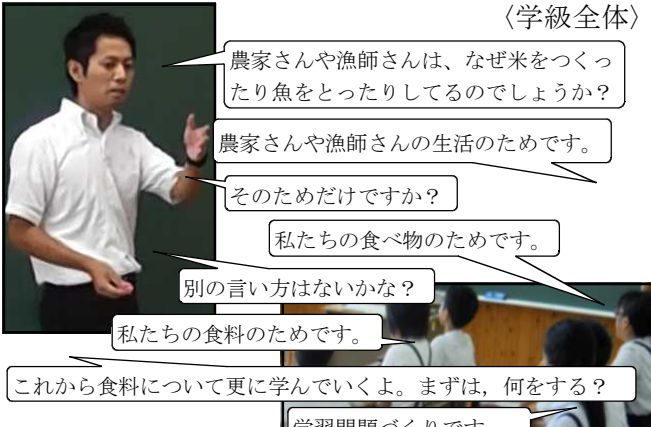

本時の目標

写真やグラフなど資料からの予想や疑問に思うことを出し合いながら、学習問題Iを考え、立場を意識しながら食料を輸入することによる影響を予想することができるようにする。

（社会的な思考・判断・表現）

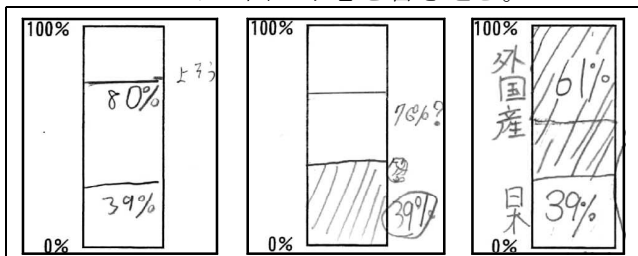
本時の授業の様子

※写真資料は、著作権及び肖像権に配慮し、処理しています。

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)、授業改善の手立て ([ ])
<p>1 これまでの学習を振り返り、めあてを確認する。(学級全体)</p>  <p>農家さんや漁師さんは、なぜ米をついたり魚をとったりしてるのでしょうか？</p> <p>農家さんや漁師さんの生活のためです。</p> <p>そのためだけですか？</p> <p>私たちの食べ物のためです。</p> <p>別の言い方はないかな？</p> <p>私たちの食料のためです。</p> <p>これから食料について更に学んでいよ。まずは、何を？</p> <p>学習問題づくりです。</p>	<p>○これまでに学習した米づくりや水産業を振り返り、生産者の努力や工夫により様々な食料が生産されていることを想起させ、「なぜ生産しているのか」を問うことで、私たちの食生活との関連に目を向けさせ、本単元の学習へとつなげた。</p>  <p>前単元とのつながりを示す板書</p> <p>○これまでの学習内容から、私たちの食料生産との意味をつなぎながら、本単元の学習への意欲付けを進めた。</p>

本時のめあて 学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。

- 2 日本の食料自給率について予想する活動を通して、食料自給率の意味について知る (学級全体)
- ① 日本で食べられる米、全部を100とすると、日本で作った米はどれくらいか予想する。
  - ② 帯グラフを使って100のうち、96という割合を量的に実感する(%の言い方を知る)。
  - ③ 米だけではなく食料全部では、どれくらいかワークシートの図に予想を書き込む。



児童が予想と正解を書き込んだワークシート

- ④ 全体で予想を発表し合う。
- 
- 自分の予想の位置で手を挙げましょう。
- 100%..., 90%..., 80%... (教師の反応：この辺りが多いですね。) 70%...
- 40%~80%ぐらいに分かれましたね。正解を知りたいですか？

- [視覚的に用語の意味を理解できるようにする手立て]
- 算数で割合をまだ習っていないので、「日本で食べられている食料を100とすると、国産の食料はどれくらいあるのだろう。」と問いかけ、図やイラストを使って予想させることで、視覚的に食料自給率の意味を理解できるようにした。
- 予想しやすいように、学習した日本の米の自給率96%を示し、「全部ではどれくらいだと思いますか」と問いかけ、予想させた。

- [児童の予想を基に予想を確認するという目的をもたせながら資料を読み取らせる手立て]
- 各個人の予想を出し合わせ、全体の予想の傾向を確かめてから、日本の食料自給率が39%であることを伝えることで、児童の予想と比べさせるようにした。

3 日本と主な国の食料自給率のグラフから、日本の食料生産の現状を考える。（個人）〈学級全体〉

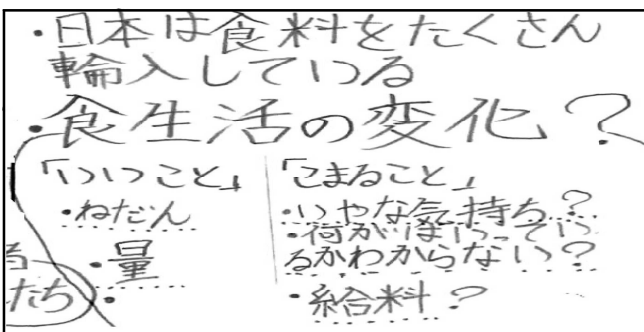
① 日本の食料自給率を知る。



② 外国産の食料を確かめ、現状を考える。



4 日本の食料自給率が低い（食料をたくさん輸入している）ことは、「良いこと」なのか、「こまること」なのかを立場を意識しながら予想する。（学級全体）



児童が予想を書き込んだワークシート

【日本の食料自給率についての問題意識をもたせながら、予想させる手立て】

- 児童の低いという驚きやなぜという疑問の反応を基に、39%は何を表しているのかを問い掛け、「日本で食べられている食料を100としたとき、日本で作ったりとったりしている食料がどれだけか」など、自分の言葉で語らせることで食料自給率の意味の理解を図った。
- 更に理解を深めさせ、学習問題へ導くために「残りの61%はどうしているのか」を問い掛け、予想させることで、外国産に目を向かせた。
- スーパーマーケットの外国産の商品表示の写真を複数提示し、身の回りにはたくさんの外国産の商品が販売されていることに気付かせることで、日本は食料をたくさん輸入していることをおさえた。
- 「日本の生産者（農家や漁家）は工夫や努力をしているのになぜだろう」や「どうしてこんな現状だと思うか」などと問い返すことで、消費者の食生活の変化に気付かせることで、学習活動4へ導いた。

【児童の予想や疑問を生かして、学習問題Iを設定する手立て】

- 日本の食料自給率の現状は、「良いこと」なのか、「こまること」なのかを問いかけ、児童の反応から、「良いこと」と「こまること」（どんな影響があるのか）を予想させた。
- 児童の発言に対して「誰にとって?」と問い返すことで、消費者、生産者、販売者の立場を導き出した。
- 児童が外国産の食料についての発言した際に、外国産のイメージを問いかけた。児童の反応から、価格の安さや安全性への心配などを取り上げたが、根拠について問い返すことで、調べて確かめようとする課題意識をもたせるようにし、学習問題Iの設定へと導いた。

5 学習問題 I を設定する。 〈学級全体〉

児童と共に作った学習問題 I 「日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう。」

6 学習問題 I に対して予想を出し合い、調べる計画を立てる。 〈個人・学級全体〉

① 学習問題 I に対する予想をワークシートに記述する。

〈学習問題に対する自分の予想〉	
だれに（立場）	えいきょう
消費者 (わたし)	安いからいい買い物をできる。 日本産ではなく、外国産のものをたくさん買 てみたいけど、少し不安。
生産者	日本のものよりも、外国のもののほうがやすいの で、日本のものが売れなくなってしまう。
販売者	食料がなくなるとこまってしまう。

児童が予想を書き込んだワークシート

② 記述した学習問題 I に対する予想を出し合い、調べる計画を立てる。

〔児童の予想を基に予想を確認するという目的をもたせながら資料を読み取らせる手立て〕

○これからの学習に対する見通しをもたせるために、学習問題 I に対する予想を立場（だれに）、（どんな）影響（があるのか）を考えさせ、ワークシートに記述させた。 【評価】

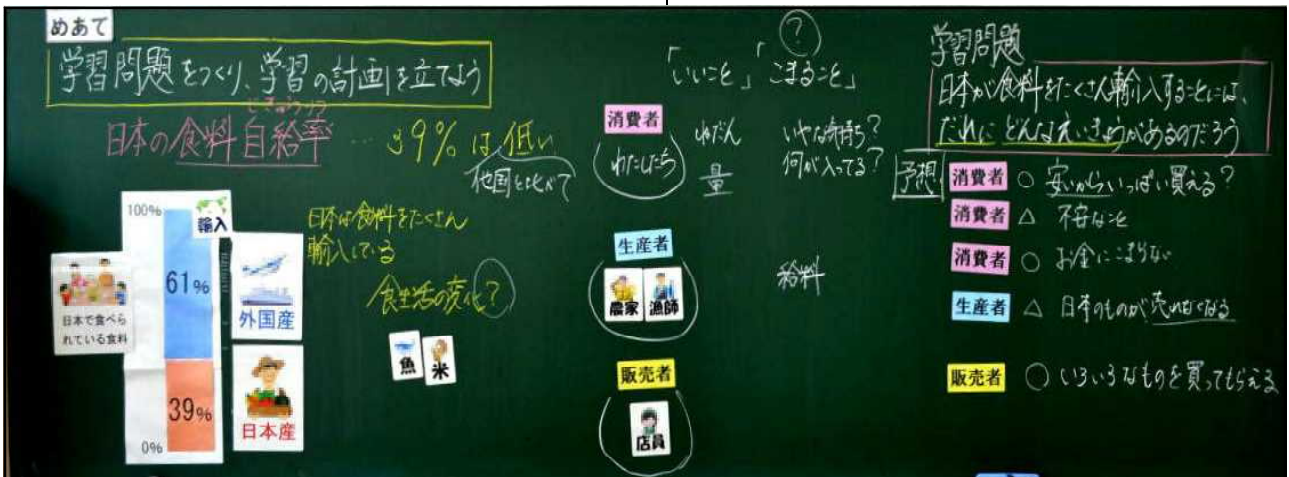
【努力を要すると判断した児童への支援】

板書を基に、外国から食料を輸入していることを確認し、消費者の立場に立つと良いことか困ることかを考えさせ、その理由を影響として記述させた。

○複数の立場から予想することができた児童を称賛し、A評価への意欲付けを行った。

○児童の予想を発表させ、立場ごとに良いことを○、困ることを△を付けることで、どんな影響なのかを確認しながら板書した。

○これから調べることとして、児童の予想を記した板書に「？」を付け、予想を確かめるための調べることを確認する中で、次時の学習で調べることとして、「食生活の変化」と「日本の食料生産の現状」を決めた。



本時の最終的な板書

本時の成果と課題 ○…成果、●…課題

- 「つかむ」過程において、日本の食料自給率について、図やイラストを使って予想させ、児童の予想を基に、教師が問いかけたことで、児童が、初発である食料自給率の用語を理解した上で、現状について考える活動へと児童の思考をつなぐことができました。

- 教師の問いかけに対して、児童に予想を立てさせてから、資料を示したことによって、児童に情報を読み取る必然性が生まれ、必要な情報を正しく読み取らせる指導として効果的でした。
- 児童がもった予想や疑問、驚きを基に、「生産者は頑張っていたのにどうして…」や「これは、良いことなのか、困ることなのか」、「本当にそうなのか」など、更に思考を促す問いかけを行い、予想させたことで、児童が知り得ている情報と関連付ける情報に不備を感じ、調べたいことを明確にしながらか学習問題Ⅰを設定することができました。
- 教師の問いかけに対する児童の反応について、数名の反応を基に進めてしまったため、他の児童が困惑し、教師が説明を加える時間を設けたことで、児童の思考の流れを遮ってしまった場面がありました。児童の発言は、それまでの児童の思考時間や学級全体での共有という視点を加味しながら、取り上げていく必要があります。